第14回 全国精神保健福祉家族大会 みんなねっと広島大会に参加して

2022年10月19日
當山 幸子

新型コロナ感染収束の見通しもつかない不安のなかで全国旅行支援が始まり、那覇空港は観光客でいっぱい、駐車場も満車でとめられない状態でした。ロシアによるウクライナ侵攻では、核兵器使用の可能性までささやかれています。このような情勢下において本大会が広島県で開催されることは大変意義深いことと思います。

オンライン配信もありましたが、どうしても広島の原爆ドームを見たいと、戦争について、核兵器について真剣に考える時期、時代だと考えたからです。

原爆被爆体験：八幡照子氏のお話では涙があふれて、とまりませんでした。この話をロシアのプーチン大統領に聞かせたいと思いました。

基調講演、特別講演で心に残ったのは、地域において精神障がい者と家族が安心して暮らせるために、家族会が強くなることが必要ということ。

国は「地域共生社会」実現への取り組みを推し進めようとしています。助けを求めたいのに適切なサポートが受けられない家族を支える仕組みづくりを、セットで考えていきたいと思いました。講演会を通して、地域住民等が支え合い、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける方向性を見つけたように感じました。

大会の会場では、オンラインではできない名刺交換ができて、いろいろな話を聞くこともできました。DVD（『家探しの現場』）をもらったり、本（『みんなで歩けば道になる』）を貸してもらえたり、またびっくりするような話も聞くことができました。

近鉄が割引になったので、息子と旅に出かけたいと思いました。沖縄に帰ってから、「私のいない4日間は寂しかったですか」と尋ねると、「家族が欲しい」と思ったそうです。結婚ができたらいいなぁ。あたたかい人間関係を築く力を高めて、学習会の取り組みを頑張り、皆様の力をお借りして。

考える時間をくださり、お好み焼きや広島城、宮島も行かせてもらい。

力不足ですが、家族会会長がんばります。ご協力をよろしくお願いします。

ありがとうございました。